

●今月の断酒表彰

A Tさん 吹田支部 断酒 39年
I Sさん 吹田支部 断酒 12年

2024 (令和6) 年 2月 1日発行 No. 252

編集・発行 事務局・広報部

<https://kz925.sakura.ne.jp/dansyu/>

断酒表彰おめでとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。

断酒に思う 143

吹田支部・A T

自ら酒を止める人もいる。一方、自ら酒を止めるつもりは無くても止めざるを得なくなる人もある。私は後者の一人であることは言うまでもない。ある時までひたすら酒を飲んでいて私が、ある事を切掛けに酒を止めなければならぬこととなった。

ある事とは三日連続のブラックアウトになったことである。特に三日目の昼日中には近所の酒屋を三軒ハシゴして飲みまくり完全につぶれてしまった。そのため、アルコール専門医の診察を受けざるを得なくなった。吹田市断酒会会長の勧めのクリニックで受診すると、直ちにアルコール依存症であるとの宣告を受け、酒を止めることと、断酒会への出席を求められた。

しかし、その時点で私は酒を止めるつもりはなく、極めて少量とはいえ酒を飲み続けた。一方、断酒会の例会には欠かさず出席した。酒を止めるつもりのない私が断酒会の例会に出席するというのは不思議な気もするし、大した努力をしたとも思えないけれど、専門医から言われた約三週間後に酒を飲まなくなり、それが昨日まで続いている。

このことから、酒を止めるつもりが全くなかった私が酒を止めることができたのであるから、断酒会は私のような不真面目な人間でも酒を止めさせてくれる力を持っていることを示している。

ところで、吹田で酒を飲んだことがない私が近所の酒屋を三軒ハシゴしたことは、この酒を最後にしておけという天の啓示であったのかも知れない。



現在まである期間酒を飲んでいないが、酒そのものを忘れてしまった訳ではない。まだ酒を飲みたい気持ちがやまやまであるということである。しかしながら、再度酒を飲んで今までやってきた

ようなことを繰り返す訳にはいかないという思いもある。その思いと前述の啓示に背かないという考えを持って、現在の断酒を続けていきたいと思う。そのためにも、できるだけ多くの例会に出席するつもりである。

断酒新生指針

七 断酒の飲びを酒害に悩む人たちに伝える

れわれは酒の奴隷となり、どう考えても人間らしさを欠いた生活をしているのに、酒をやめる必要はないと思っていた。アルコール依存症には元来、社会に適応できない人間になるものという偏見を自分の内部に持っており、自分の酒を否定することは、自分の人格を否定することでもあった。

ところが、病気の進行と自分を取巻く状況の悪化や、自分の心の中に芽生えてきたどん底感によって、やがて、酒をやめたいと願うようになった。だがもう一方では、やめられるはずがないという考えも合わせて持っていた。ときには酒は、自分の命よりも大切なものであったため、断酒は実現不可能なものとあきらめていた。

その不可能だと思っていたことが、断酒会にめぐり逢い、断酒例会を通しての家族の理解の深まりや愛の復活と、仲間たちとの信頼関係と暖かい援護によって、可能であることが実証された。 〈中略〉

酒害相談で一番大切なことは、自分の入会前の最悪の状態を頭の中に再現し、それをありのまま話し、どんなひどい酒害者でも断酒できるという事実を伝えることである。断酒などととてもできそうにないと考えている人を説得するには、自分が彼らからすぐ手の届くような存在でなくてはならないのである。 〈中略〉

酒害相談というわれわれの奉仕活動は、社会一般の奉仕活動とはかなり差がある。無償で社会や他人のた

めに尽す行為であることには違いはないが、よくよく考えると、金品には代えられない大きな収穫がある。

酒で苦しんでいる人やその家族に接することで、ともすれば薄れがちになる自分の酒害の記憶を生々しく思い出し、自分のやるべきことが再確認できる。酒害者と酒害者の連帯、人間と人間の触れ合い、自分自身の在り方、その他、様々な断酒の糧となるものが、彼らとの関わりの中にある。奉仕という言葉が適当でないほど自分自身のためになっている。だから、もっと積極的に、もっと純粋に酒害相談活動に取り組むべきではないだろうか。

断酒会員である限り、いつまでも酒害相談を続けよう。そうすることによって、常に愛と感動を自分のものにできる。

みんなの広場

京都初詣で

吹田支部・I S

今年の初詣は、正月三が日を避けて七草粥にあずかり、第2週に参りました。辰年に因み、龍にゆかりのある神社を巡りました。

まずは、上賀茂神社（正式には賀茂別雷神社=>かもわけいかづちじんじゃ）に初詣してきました。例年1月7日には七草粥境内で振舞われるのですが、今回は日曜日と重なり多くの参拝客が列をなしていましたので、拝殿を先に参りました。国宝の神社で、中には毎月第2、第4日曜しか公開されないのと、本殿から奥まったところに祀ってあるため、一般にはあまり知られていません。次回、時間があればもう一度参りたいと思います。また、こちらの神社には本殿と権殿の二棟が建設されており、式年遷宮や火災等の時にも神様が引っ越ししやすいようになっているそうです。



ここは京都四神相応のうち蒼龍が祀られています。

次に、下賀茂神社（賀茂御祖神社=>かもみおやじんじゃ）へ参りました。こちらはみたらし団子発祥の地ともされており、御手洗川の水くじが有名です。私もこの水くじを引いてみましたが、大吉とはいかず末吉でした。



さらに、流鏝馬の行われる馬場のそばにある雑大社は関西ラグビー発祥の地として有名です。糺の森を歩いていくと女性にとって縁の深い河合神社もあります。多くの女性が参拝しておりました。このあと、電車を乗り継いで、八坂神社へと歩を進めました。

この八坂神社の本殿と拝殿は同じ場所に建てられており、「祇園造り」といって日本でここだけのものだそうです。また、古くは台地の上に建てられており京都のどこからでも参拝できる場所だということで崇められていたそうです。多くの参拝客が正門だとおもっている西楼門には隨身=平安時代の貴族の護衛役が立っています。左大臣、右大臣を表し、左大臣の方が上位だということもあらためて知りました。

大神宮社という摂社は、鳥居の中に内宮、外宮があり、伊勢神宮に代わるところもありました。これもテレビの影響か多くの参拝客がいました。普段は寄り付かないであろう場所です。翌日に、嵐山の松尾大社、城南宮を参拝して「京都五社巡り」を満願してきました。今年の私の抱負は、決して欲張らないこととあらためて振り返り、帰途につきました。 **(続く)**



お知らせ

その1 1月度、吹田支部にT Sさんが入会されました。みなさんよろしくお祈りします。

その2 2月18日(日) 10:00~12:00 男女共同参画センターで「**会員・家族の学習交流会**」を開催します。

3月3日(日) 13:30~16:30、摂津市コミュニティプラザ(阪急摂津市駅前)で、「**北摂断酒連合会一日勉強会**」を開催します。ご参加ください。

※いずれも参加費は無料ですが、資料準備の都合で参加申込は事前に各支部長までお知らせください。